



令和8年
5月

学校だより
「自立と感謝」
～心ゆたかに かしく たくましく～

さいたま市立大砂土東小学校
048(684)8003
令和 8 年 4 月 28 日発行

子どもが新幹線で騒いだら

校長 石川 顕一

春本番でありながら、最高気温が 25 度を超える夏日がみられるようになりました。気象庁は、夏日、真夏日、猛暑日を超える「酷暑日」を定めました。徐々に暑さに慣らし、汗をかきやすい体を今からつくっていきましょう。

多くの人が公共交通機関で長時間の移動をするゴールデンウィークとなりました。新幹線や飛行機では、子どもの騒ぐ声の問題になることがしばしばあります。

公共の場で子どもが騒ぎ出したらどのような対応が考えられますか。

- 例 1 「うるさい」と怒鳴る。
- 例 2 「シーッ」と口の前に指を立てて黙らせようとする。
- 例 3 「お願いだから静かにして」と頼む。
- 例 4 周りを眺め「周りの人に叱られちゃうよ」と伝える。
- 例 5 放っておいて関与しない。
- 例 6 事前に用意しておいた本やお菓子などを与える。



▲ 自分の命は自分で守る

などが挙げられるでしょう。私は、自分の子どもには例 4 のような対応をしてきたと思います。例 4 「周囲の人に叱られてしまうよ」は「公共の場では静かにしなさい」と言うべきことを毅然と言うことを避けています。また、「子どもが騒ぐのは自分の手立てが不足しているからです」と責任を引き受けることを嫌っています。人のせいにした言い方であり、今更ながら反省しています。

本校の教育目標に「自立」という言葉を掲げています。

この自立の条件はどのようなものかと問われたら何と答えましょう。言うべきことを毅然と伝えることや、自分の言動に責任をもつことは、その一つと言えるでしょう。本校では、幸せ (Well-being) な人生を送るためには、自立していることが重要だと考えています。子どもたちには、人のせいにする大人になってほしくはないです。

子どもを自立した人間に育てるための第一歩は、私たち大人自身が自立している姿を子どもに示すことです。子どもたちに対して「ダメなものはダメ」と自身の責任で毅然と言えることです。そして、その前提に、「自分の気持ちをわかってもらえている」という安心感が子どもの心の中にあることです。子どもに安心感があることで、いざという時の言葉が子どもの心にすっと届くのです。

学校でも、家庭・地域でも、子どもの安心感を醸成し、自身の責任で毅然と言うべきことを言ってまいりましょう。